様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２２９６

研究課題名（和文）16世紀における軍記物語と教訓書の関連性

研究課題名（英文）Relations between gunkimonogatari and didactic materials in the 16th century

研究代表者
滝澤　みか（Takizawa, Mika）

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：２０７７８６８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：16世紀における軍記物語の改作と教訓書との関連性を考えるため、強い教訓性を持つ流布本『保元物語』『平治物語』を取り上げ、その改作の実態を明確にしつつ、教訓書における話の作り方とも無関係ではない可能性を指摘した。また、近世に作られた注釈書を見ると、本文成立時の意図とはずれが生じていることを明らかにした。すなわち、16世紀以降の作品の読みを捉えていくことは、教訓性の持続の問題を考えることにも繋がると言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義
流布本『保元物語』『平治物語』の改作の実態を捉えると、室町末期・戦国期という動乱期において、物語性よりも守るべき価値観を示す文学が必要であったのではないかと考えられるが、その本文の改作の意図は後代に必ずしも伝わっていたとは考え難い。それは近代の戦時下において、軍記物語が当時の教育に都合の良いように読み替えられていた姿勢とも無関係ではないと考えられ、こうした軍記物語と教訓・教育との関係性を16世紀以降も含め通史的な視野も持って捉えていくことにより、〈いくさ＝戦争を書く文学〉の存在の在り方や、なぜ人はいくさを書いた物語を読むのかという問題を解き明かすことにも繋がると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In order to consider the relations between the adaptation of gunkimonogatari and the didactic materials in the 16th century,I picked up the rufubon of Hogen Monogatari and Heiji Monogatari, which are characterized by strong didactic element,and clarified the reality of their adaptations, pointed out the possibility that they were not irrelevant to the way of make the story in the didactic materials.In addition, investigating at annotation books made in the edo period, I clarified that there was a differences from the intention at the time the text was written.In other words, understanding the reading of works from the 16th century onwards will also lead to consideration of the issue of persistence of didactics.

研究分野：中世文学

キーワード：軍記物語　保元物語　平治物語　流布本　教訓書　室町　戦国　義貞軍記

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本史上のいくさを題材とする「軍記物語」と呼ばれるジャンルの作品は、改作されながら享受されてきた歴史を持つ。これまで報告者は、『保元物語』『平治物語』に焦点を当て、改作の最終段階に位置する「流布本」と呼ばれる本文を研究し、強い教訓性を持つことを明らかにしてきた。それは、流布本が成立した室町末期・戦国期において、人に教えを説く役割を担った教訓書的な作品がそれ以前よりも多く成立していることとも無関係ではないと考えられる。また、室町・戦国期の軍記物語と教訓書は複雑に影響し合い、中世以降の社会にも影響していることが確認出来るが、軍記物語と教訓書の連関に関する先行研究は数が少ないという状況にある。

２．研究の目的

本研究では、軍記物語と教訓書の影響関係を、偽書との関わりも視野に入れて捉えていくことを目指すものである。社会の動乱期にも作られていた教訓書の生成・特性や、それらと軍記物語との影響関係を分析することで、動乱期における文学の役割・在り方や、教育と〈戦争を書く文学〉の関わりを明らかに出来るとともに、何を以て人は理想や教えとするのか、そのためにどのように過去の戦争や文学を活用するのかという、現代にも関わる教育や戦争との向き合い方を考えることにも繋がる。

３．研究の方法

室町・戦国期に作成された教訓書は数が多く実態が不明確な面もあり、さらなる厳密な諸本調査・内容分析が必要であると考えられる。また、軍記物語の中でも『保元物語』『平治物語』の流布本を中心に、室町・戦国期における改作の実態を明確に把握していくため作品の内部分析も行いつつ、他の軍記物語の内容も教訓書に活用されていることから、他作品の検証も教訓書と比較しつつ行っていく。

４．研究成果

本研究で得られた成果は、主に次の三点にまとめられる。

（１）軍記物語の改作の実態の把握

まず「流布本『保元物語』『平治物語』による合戦場面の改変から見えるもの」（「日本文学研究ジャーナル 11」2019.9）は、本研究課題の中心的成果である。流布本『保元物語』『平治物語』による合戦場面の改変を検証することで、各作品の価値観や、その価値観の許容範囲を浮かび上がらせることが可能であることを示し、それは単に個々の作品の特性の解明のみならず、中世文学全体の問題を考えること、そして教訓的要素を持つ作品による情報の改変が、仮託や偽書のシステムの問題にも繋がる可能性を指摘した。

また、共著書刊行（小井土守敏氏と共著『流布本保元物語・平治物語』武蔵野書院、2019.3）を行い、同書において頭注および解説の執筆を担当した。解説では軍記物語の中でも流布本『保元物語』『平治物語』が持つ教訓性についてまとめるとともに、頭注を付ける作業を通して、流布本段階の両物語において新しく用いられている表現が、16 世紀の当時に多用されていた表現であることを把握し、当時の文学作品や各資料間における繋がりを捉えることが出来た。

さらに「流布本『保元物語』と流布本『平治物語』が纏う〈知〉の違い」（「武蔵野文学 67」2019.11）では、流布本『保元物語』に見える地名の特徴や、『三教指帰』と一致する本文を見出しつつ、流布本『保元物語』と流布本『平治物語』とで依拠する知が異なることを指摘した。

上記の成果を踏まえ、期間中に単著を刊行するに至った（『流布本『保元物語』『平治物語』にみる物語の変遷と背景―室町末・戦国期を中心に―』汲古書院、2021・2）。当該単著では、本研究のテーマである「16 世紀における軍記物語と教訓書の関連性」について、流布本『保元物語』『平治物語』を通して見た、軍記物語の教訓性の問題の社会的意義・研究の展望について結論を述べている。また、こうした軍記物語の教訓性の問題は、海外との比較も重要であることが見えてきており、新たな観点を得ることが出来たことは大きい収穫と言える。

以上の研究を踏まえて、今後の課題も見えてきた。口頭発表「『保元物語大全』『平治物語大全』の物語読解と教訓性の行方―軍記物語の古注釈書の一端―」（早稲田大学国文学会、2021.12）と「西道智著『保元物語大全』『平治物語大全』にみる読みの流動」（軍記・語り物研究会、2022.1）は、本研究を進めていく中で新たに見えてきた軍記物語の教訓性の維持の問題を考えるため、『保元物語』『平治物語』の古注釈書の研究に取り組んだものである。内部検証の結果、両物語の古注釈書は流布本の内容とはまた異なる教訓を示す書となっていると考えられ、中近世の教訓書とも比較していく予定である。古注釈書については、また別途の研究課題において更に広く軍記物語全体の問題として総合的に取り組む見通しである。

（２）物語本文と絵画資料との差異

「センチュリー文化財団蔵（斯道文庫寄託）本からみる『平治物語絵巻』「六波羅合戦巻」の

展開―物語と絵画の世界の方向性を考えつつ―」（『古代中世文学論考 40』新典社、2020.3）は、文学の世界と絵画の世界とで、同じいくさを題材にしていたとしても、作品の改作や模本制作の過程で進む方向性が異なっていくことを明らかにした。『平治物語』と関わる『平治物語絵巻』の改変の問題は「『平治物語絵巻』は何を表現しているのか」（『古典文学の常識を疑うⅡ』勉誠出版、2019.9）でも取り扱っている。

また、「『保元物語』『平治物語』における版本の挿絵の展開―流布本本文と絵の照合から―」（『軍記物語講座　第一巻』花鳥社、2020.1）では、流布本の本文を基軸として、版本が作られる中、改作の意図がずれていく様子を明らかにし、教訓性の持続の問題を考えることにも繋がった。

「馬の博物館蔵画帖にみる『保元物語』『平治物語』の二段階の享受と構成」（中根千絵氏他編『合戦図 描かれた〈武〉』〈勉誠出版、2021 刊〉所収）では、画帖を通して軍記物語の絵画化の問題を検証した。『保元物語』『平治物語』は流布本段階になると教訓性を帯び、それに伴い独自の内容で本文を構築していくが、絵画化される場合、必ずしもそれらが忠実に絵に反映されるわけではないことは上記の研究成果でも示してきた。本論文で取り上げた馬の博物館画帖はまた新たな絵画資料であり、戦乱の物語の絵でありながら、処刑場面を避けるという傾向を持つことが確認出来る。絵巻の模本とは異なり、奈良絵本や版本の場合は場面選択に物語との向き合い方が表れていると言えよう。また、画帖の形態に再編されているという点、特異であり、その際にも物語本文との接触が窺えること、更には本文が失われた後も、新たな物語の流れを示すことが有り得ることを指摘した。

（３）教訓書の諸本調査

特に『群書類従』に収められている中近世に作られたと考えられる教訓書を主として、その調査のため各所蔵機関を訪ねた。教訓書は先行研究が限られていることもあり、例えば『義貞軍記』のようにまとまった研究成果が出ている作品であっても従来確認されていなかった写本が存在していることが分かり、そうしたこれまで未紹介であった本も含めて閲覧・複写が出来た。現在、得られた書誌情報に基づき、未紹介の本が諸本の流れの中でどの位置付けになるかを整理している。但し、教訓書の諸本の中には現在の所蔵が不明になっている本も複数あることが分かり、期間中に所在の確認に至らなかった本については引き続き追っていきたい。

研究期間全体を通して、途中、社会情勢による移動の制限により予定通りに調査が行えず期間を延長せざるを得ない事態も生じたが、その分資料について考える時間が増えたことにより、詳細が不明なままであった『君慎』のような資料についても手掛かりを得ることが出来たことは大きかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 滝澤みか	４．巻 -
２．論文標題 馬の博物館蔵画帖にみる『保元物語』『平治物語』の二段階の享受と構成	５．発行年 2021年
３．雑誌名 合戦図　描かれた〈武〉（依頼有）	６．最初と最後の頁 225-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 滝澤みか	４．巻 11
２．論文標題 流布本『保元物語』『平治物語』による合戦場面の改変から見えるもの	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本文学研究ジャーナル（依頼有）	６．最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 滝澤みか	４．巻 67
２．論文標題 流布本『保元物語』と流布本『平治物語』が纏う〈知〉の違い	５．発行年 2019年
３．雑誌名 武蔵野文学（依頼有）	６．最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 滝澤みか	４．巻 1
２．論文標題 『保元物語』『平治物語』における版本の挿絵の展開―流布本本文と絵の照合から―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 軍記物語講座（依頼有）	６．最初と最後の頁 172-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 滝澤みか	4．巻 40
2．論文標題 センチュリー文化財団蔵（斯道文庫寄託）本からみる『平治物語絵巻』「六波羅合戦巻」の展開―物語と絵画の世界の方向性を考えつつ―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 古代中世文学論考	6．最初と最後の頁 133-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 滝澤みか	4．巻 II
2．論文標題 『平治物語絵巻』は何を表現しているのか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 古典文学の常識を疑う（依頼有）	6．最初と最後の頁 142-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 滝澤みか
2．発表標題 『保元物語大全』『平治物語大全』の物語読解と教訓性の行方―軍記物語の古注釈書の一端―
3．学会等名 2021年度早稲田大学国文学会秋季大会（依頼有）
4．発表年 2021年

1．発表者名 滝澤みか
2．発表標題 西道智著『保元物語大全』『平治物語大全』にみる読みの流動
3．学会等名 軍記・語り物研究会第428回例会（2022年1月例会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 滝澤みか
２．発表標題 『保元物語』『平治物語』における挿絵の展開―版本・奈良絵本を中心に―
３．学会等名 名古屋大学頭脳循環プログラム研究集会　絵巻・絵本研究を中心として（依頼有）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 小井土守敏・滝澤みか	４．発行年 2019年
２．出版社 武蔵野書院	５．総ページ数 312
３．書名 流布本　保元物語　平治物語	

１．著者名 滝澤みか	４．発行年 2021年
２．出版社 汲古書院	５．総ページ数 552
３．書名 流布本『保元物語』『平治物語』にみる物語の変遷と背景―室町末・戦国期を中心に―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関